

# 太田おばさんの話

鳥取県 やまなじ山名寺住職 ひらのしゅんどう 平野 俊 堂

---

今朝は太田おばさんのお話です。

太田おばさんは、大変、気のよい世話ずきのおばさんで、皆から親しみを込めて「太田おばさん」と呼ばれています。

太田おばさんは、六十歳前でぼっちゃりして声が大きいのが特徴です。太田おばさんが世話好きになったきっかけは、姑の介護で忙しかった時に、近所の人達が、おばさんの三人の子どもの面倒をみてくれたことに、感謝したからです。太田おばさんは姑が亡くなったあと、

今度はわたしがお返しする番だと奉仕作業に積極的に出て行くようになりました。そして我が子の通う中学や高校のPTA活動にも、精を出していました。

特に高校のPTA行事には、保護者の参加が少なく、学校祭の準備をする際には、太田おばさんは貴重な存在でした。

太田おばさんは高校の競歩大会では、休憩地の豚汁サービスを担当していました。歩き疲れた生徒達は、太田おばさんから豚汁のお椀を渡され「精をつけて、あと半分頑張りやー」と言われると、本当に元気になり、後半の十キロを完歩することが出来たと、あとあとまで話をしていました。

高校のPTAのお世話は我が子が卒業してからも、三年間続けていましたが、ある時太田おばさんは、交通事故にあい入院しました。

退院し、体調がよくなったこの頃は、自治会の福祉部員として、子ども達やお年寄りに関わっています。

今日も太田おばさんは大きな声で「こんにちは！ お元気ですか！」と声かけをしています。

本当にありがたいことです。